

令和3年度 学校評価報告書

小樽市立桜小学校
校長 水口 正紀

1 本年度の重点目標

互いに認め合い、自ら考え進んで行動する子どもの育成

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	小樽授業づくりの5つのステップ 全教科の実践80%以上	B	研修教科の算数科を中心に全教科へ広げている。着実に実践教科は増えているが、芸能教科における実践には課題が残る。	B
	特別支援教育の充実	個別の指導計画の作成・活用100%	A	特別支援学級児童全員の指導計画は作成している。指導計画をもとに、個々の目標や状況を通知表へ記載するなど、保護者との連携にも活用している。	A
	国際理解教育の充実	外国語専科教員による授業公開の実施(年1回以上)	A	今年度は、望洋台小で行われた公開研究に全教職員が参加した。外国語の加配教員による担任へのフィードバックは常に行っている。	A
	理数教育の充実	「算数がすき」 児童回答80%以上 「理科がすき」 児童回答85%以上	A	4年生以上の理科は専科教員が授業を行い、教材準備等の充実により、理科好きの児童が増えている。算数は、校内研修を通して、授業の活性化が図られている。児童アンケートにより達成を確認。	A
	情報教育の充実	プログラミング教育のための研修の実施(年1回以上)	B	プログラミング授業は予定通り実施しているが、研修を実施していない。クロームブック活用に関する研修に置き換わってしまっている状況である。	B
	キャリア教育の充実	キャリアパスポートの作成・活用100%	A	全学年で作成しており、活用もされている。	A
改善方策	令和の日本型教育で求められる「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善となるように、研究教科の算数を通して理論と具体的な指導法についての研究を深め、全教科へ広げていく。また、学びを活性化させるためのクロームブックの活用法について研修を深め、学級間格差なく使えるようにしていく。				
学校関係者評価委員による意見	・確かな学力の育成、教職員振り返りシート自己評価では、3. 10と大幅な向上が見られるのでA評価とした。 ・コロナの中、先生達の努力はいかばかりかと心が痛みます。キャリアパスポートの具体的なことが分かりません。とても大変なことのように思えました。専科教員での授業はよいことです。				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	「自分には良いところがある」 児童回答85%以上	B	道徳の授業実践や自己有用感を高めるための教員からの温かい声かけなどにより、自己有用感を高める取組を行っている。児童回答は80%となった。	B
	ふるさと教育の充実	ふるさと教育に関する外部講師活用 全学年80%以上	B	3年生以上の社会科や総合的学習において、積極的に地域の外部講師を活用するようにしている。コロナの関係もあり、80%以上は達成できなかった。	B
	読書活動の推進	月・水曜日の全校朝読書の取組 実施率100%	A	朝の活動の中に、1日を落ち着いてスタートさせる・読む力を高める事を目的として、月・水の10分間を全校朝読書とし、目的を達成できている。	A
	体験活動の推進	ボランティア活動体験 全学級実施100%	B	全校一斉の校区内清掃活動を予定していたが、コロナにより全校での実施はできず、100%の実施とはならなかった。	B
	コミュニケーション能力の育成	言語活動の積極的取組 教師回答85%以上	A	国語を中心に、言語活動を積極的に取り入れており、教職員学校評価の「言語活動の取組」では、到達目標を達成している。	A
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	「友達の良い所をみつける」 児童回答85%以上	A	おだやかな学級づくりをめざし、生活規律の徹底や温かな声かけを実践している。児童アンケートでは85%の達成率となっている。	A
改善方策	豊かな心の育成のために、おだやかな学校・学級づくりを進めてきた。「時を守り 場を清め 礼を正す」を学校経営の根幹に据え、教職員・児童共に着実に歩みを進めている。今後は、言われてからやるのではなく、自ら進んで考え行動して「ひとりだち」できるように、日常生活や授業改善において、具体的な行動目標や策をたてながら進めていく。				
学校関係者評価委員による意見	・コロナ禍での色々な活動、コミュニケーション不足が今後の課題。 ・道徳教育の充実、3. 16と大幅な向上が見られるのでA評価とした。 ・読書の取組に期待します。創造性のある教育を期待します。				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	新体力テストを活用した授業改善 教師回答90%以上	B	全学年で新体力テストを実施し、結果を授業改善に活かすように取り組んでいる。全体での共有・研修が進まずに、目標に達成していない。	B
		食育の推進	栄養教諭による食育の授業 全学級実施100%	A	栄養教諭による食育の授業を全学級で進めている。栄養教諭がT1となり、担任がT2となって、児童の実態に合わせた楽しい授業を実践してくれている。	A
		健康教育の充実	薬物乱用防止教室、エビペン・AED 研修各年1回実施	B	エビペンを持参している児童がおり、食物アレルギーとエビペンの研修は4月早々に実施している。AEDや薬物防止教室は、今後実施予定である。	B
改善方針	コロナ禍においては、体育の授業や遊びに制限があり、児童の体力・運動能力向上への取組が進んでいない。令和4年度は、従来通りの教育活動を進めることを前提として、体育の授業改善や体力向上プランについて、改めて全教職員で共有し共通実践するものを増やしていく。					
学校関係者評価委員による意見	・制限された学校生活。子ども達の体力をつける部分で心配です。おもいっきり動けないので、心、体のバランスをとれないように思います。コロナが落ち着いてきたら、体育や遊びなどで体を動かす活動をたくさん行って欲しいと思います。					
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	家庭学習強化週間を年3回設定	A	学期に一回ずつ、桜町中学校と連携して設定している。全学年で学力テストにつながるような文章問題を週末課題として設定し、土日にじっくりと考えてくるようにした。提出率もあがってきている。	A
		学校と地域の連携・協働の推進	CS導入に向けた校内学習会の実施 (年1回以上)	B	CSについては小中一貫教育の企画部会の中で話題となり検討することになっているが、職員間での学習会はまだ実施していない。	B
改善方針	家庭学習や安全に関わる学校と家庭の連携がここ数年で進んできていることが、保護者アンケートなどからも読み取れる。学校だより、学級だよりなどの発信と併せ、安心メールと学校ホームページを更に充実させていく。学校と家庭・地域の連携を深め、WINWINとなれるようなCSづくりをめざし、話し合いの場(PTA・評議員会・小中一貫教育)を設定し実現へ向け動き出す。					
学校関係者評価委員による意見	・家庭、学校との連携・協働は大切です。努力している様子が見られます。がんばってください。					
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	小中一貫、グランドデザイン・共通目標の設定と年5回以上の会議の実施	A	グランドデザインを作成し、「ひとりだち」を共通目標と設定した。企画部会は4回実施済みで、毎回、全職員に活動報告を行い共有を図ってきた。	A
		教育環境の整備・充実	教室・廊下・空き教室等の環境整備 教師回答90%以上	A	「場を清める」ことを大切に、教師が率先して、教室・廊下・空き教室の環境整備を進め、目標は達成されている。	A
		教職員の資質・能力の向上	校内研修の充実と公開研究会の開催 (9月に開催予定)	A	算数科の研修を通して児童が主体となる学びの実現を目指している。桜町中と望洋台小を対象とした公開研究会を10月に実施した。	A
		学校運営の改善	「働き方改革が進んだ」 教師回答80%以上	B	働きがいのある職場作りをめざし、全ての教育活動に働き方改革の視点を取り入れながら進めている。コロナ対応への疲弊感もあり、目標へは到達しなかった。	B
		学校安全教育の充実	防犯教室及び防犯訓練の実施 (年1回)	A	警察署に依頼して、低学年・高学年と内容を分けて、校内のライブ放送により実施した。	A
改善方針	小中一貫教育については、グランドデザインの作成や「ひとりだち」を共通目標と設定するなど、着実に進んできている。令和3年度は周知・共有の1年だったので、令和4年度からは、「ひとりだち」へ向けた実践を増やしていく。働き方改革については、学校運営委員会が中心となり、「やれることはすぐにやる」を合い言葉に、実践を加速させる。					
学校関係者評価委員による意見	・1人の子にタブレット一台など、コロナ禍ではやむを得ないこともあるのかと思いながら、「紙と鉛筆」のシンプルな教育が基本に思えました。					
社会教育に関連する目標 (目標6～8)		高島プール、総合博物館をそれぞれ 年1回以上利活用	C	今年度もプールは中止。総合博物館の利用もできなかった。	C	
改善方針	コロナ禍で社会教育の利用・活用が制限されているが、今年度も状況をみながら活用を続けてきた。コロナ禍で人とのつながりの大切さを痛感してきているので、地域から学ぶ・地域とつながることを大切に、今まで以上に積極的に社会教育施設を活用していく。					
学校関係者評価委員による意見	・コロナ禍の中、制限ばかりの中、児童も先生も大変ですが、毎日の生活をていねいに大切に子ども達を育てて下さい。 ・教職員の問題ではなく、コロナ禍の活動停止であり、評価は困難です。					